様式１－１

大学等名	立正大学
プログラム名	立正大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、法学部、社会福祉学部、地球環境科学部、心理学部

③ 修了要件

プログラムを構成する授業科目「データサイエンス入門」1科目2単位の修得をもって修了要件とする。

必要最低科目数・単位数　1 科目　2 単位　履修必須の有無　令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4．オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス入門	4-1統計および数理基礎		
データサイエンス入門	4-4時系列データ解析		
データサイエンス入門	4-5テキスト解析		
データサイエンス入門	4-6画像解析		
データサイエンス入門	4-8データ活用実践（教師あり学習）		
データサイエンス入門	4-9データ活用実践（教師なし学習）		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	~~・Society 5.0、データ駆動型社会「データサイエンス入門」（1回目）~~ ~~・ビッグデータ「データサイエンス入門」（2回目）~~ 【第1回】社会で起きている変化とデータ・AI の利活用の最新動向（Society 5.0，データ駆動型社会，AI リテラシー 等）
	1-6	~~・AI利活用の最新動向「データサイエンス入門」（1回目）~~ 【第1回】社会で起きている変化とデータ・AI の利活用の最新動向（Society 5.0，データ駆動型社会，AI リテラシー 等）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	~~・構造化データ・非構造化データ（文章、画像/動画、音声/音楽など）「データサイエンス入門」（2回目）~~ 【第2回】社会で活用されているデータ（データの種類、構造化・非構造化データ，ビッグデータ 等）
	1-3	~~・データ・AIの活用領域の広がり「データサイエンス入門」（3回目）~~ 【第3回】データ・AI の活用領域と利活用の現場（データ・AI の活用領域の広がり，流通・製造・金融等の現場におけるデータ・AI の活用事例，公的統計・企業データを用いた課題解決・データ分析 等）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	~~・データ可視化「データサイエンス入門」（5回目）~~ 【第3回】データ・AI の活用領域と利活用の現場（データ・AI の活用領域の広がり，流通・製造・金融等の現場におけるデータ・AI の活用事例，公的統計・企業データを用いた課題解決・データ分析 等）
	1-5	~~・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス入門」（3回目）~~ 【第3回】データ・AI の活用領域と利活用の現場（データ・AI の活用領域の広がり，流通・製造・金融等の現場におけるデータ・AI の活用事例，公的統計・企業データを用いた課題解決・データ分析 等）

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	~~・ELSI、GDPR、AI社会原則「データサイエンス入門」(14回目)~~ ~~・個人情報保護「データサイエンス入門」(15回目)~~ 【第13回】データ・AI 利活用における留意事項(ELSI, GDPR, AI 倫理, 情報セキュリティとプライバシー、個人情報の保護)
	3-2	~~・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「データサイエンス入門」(15回目)~~ 【第13回】データ・AI 利活用における留意事項(ELSI, GDPR, AI 倫理, 情報セキュリティとプライバシー、個人情報の保護)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	~~・データの種類(量的変数、質的変数)、代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「データサイエンス入門」(5回目)~~ 【第5回】データの読み方・説明の仕方・扱い方(記述統計、データ解析、データの分布、代表値、データ表現、データの比較、データの集計、デー タの可視化・加工 等)
	2-2	~~・データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップ)「データサイエンス入門」(5回目)~~ 【第5回】データの読み方・説明の仕方・扱い方(記述統計、データ解析、データの分布、代表値、データ表現、データの比較、データの集計、デー タの可視化・加工 等)
	2-3	~~データの集計(和、平均)「データサイエンス入門」(5回目)~~ 【第5回】データの読み方・説明の仕方・扱い方(記述統計、データ解析、データの分布、代表値、データ表現、データの比較、データの集計、デー タの可視化・加工 等)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事に活用する基礎的素養を身に付ける。 数理・データサイエンス・AIに関する知識や技能を人間社会に適切に活用し、AI等の恩恵を享受するとともに、これらを説明・活用することができる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容　※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、**「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」**(2024年2月　数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

様式１－２

大学等名	立正大学
プログラム名	立正大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

データサイエンス学部

③ 修了要件

2023年度～2025年度入学者は、データサイエンス学部において開講される「AI入門Ⅰ」、「AI入門Ⅱ」の合計2科目4単位の修得をもって修了要件とする。

2026年度以降入学者は、データサイエンス学部において開講される「データサイエンス入門」の1科目2単位の修得をもって修了要件とする。

必要最低科目数・単位数　1 科目　2 単位　履修必須の有無　令和5年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
~~AI入門Ⅰ~~	~~2~~	~~○~~	~~○~~	~~○~~					
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
~~AI入門Ⅰ~~	~~2~~	~~○~~	~~○~~	~~○~~					
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
~~AI入門Ⅰ~~	~~2~~	~~○~~	~~○~~	~~○~~					
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
~~AI入門Ⅱ~~	~~2~~	~~○~~	~~○~~	~~○~~					
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
~~AI入門Ⅰ~~	~~2~~	~~○~~	~~○~~	~~○~~	~~○~~						
データサイエンス入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
~~AI入門Ⅰ~~	~~4-8データ活用実践（教師あり学習）~~		
データサイエンス入門	4-1統計および数理基礎		
データサイエンス入門	4-4時系列データ解析		
データサイエンス入門	4-5テキスト解析		
データサイエンス入門	4-6画像解析		
データサイエンス入門	4-8データ活用実践（教師あり学習）		
データサイエンス入門	4-9データ活用実践（教師なし学習）		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	~~・AI（人工知能）の概要（人工知能の定義・概要，研究の歴史　等）（2回目）~~ ~~ビッグデータ、IoT、AI等の活用、計算機の処理性能の向上、第4次産業革命、Society 5.0など~~ 【第1回】社会で起きている変化とデータ・AI の利活用の最新動向（Society 5.0，データ駆動型社会，AI リテラシー 等）
	1-6	~~・AI（人工知能）の概要（人工知能の定義・概要，研究の歴史　等）（2回目）~~ ~~・ニューラルネットワーク及びディープラーニングの基礎（14回目）~~ ~~AI等を活用した新しいビジネスモデル、AI最新技術の活用例など~~ 【第1回】社会で起きている変化とデータ・AI の利活用の最新動向（Society 5.0，データ駆動型社会，AI リテラシー 等）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	~~・AI（人工知能）の概要（人工知能の定義・概要，研究の歴史　等）（2回目）~~ ~~・データの分類と機械学習の基礎①（データの分類，クラスタリング　等）（6回目）~~ ~~調査データ、実験データ、構造化データ、非構造化データ、データ作成、データのオープン化など~~ 【第2回】社会で活用されているデータ（データの種類、構造化・非構造化データ，ビッグデータ 等）
	1-3	~~・AI（人工知能）の概要（人工知能の定義・概要，研究の歴史　等）（2回目）~~ ~~データ・AI活用領域の広がり、研究開発、仮説検証、知識発見、原因究明など~~ 【第3回】データ・AI の活用領域と利活用の現場（データ・AI の活用領域の広がり，流通・製造・金融等の現場におけるデータ・AI の活用事例，公的統計・企業データを用いた課題解決・データ分析 等）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	~~・AI（人工知能）の概要（人工知能の定義・概要，研究の歴史　等）（2回目）~~ ~~データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など~~ ~~データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化など~~ ~~特化型AIと汎用AI、AIとビッグデータなど~~ 【第3回】データ・AI の活用領域と利活用の現場（データ・AI の活用領域の広がり，流通・製造・金融等の現場におけるデータ・AI の活用事例，公的統計・企業データを用いた課題解決・データ分析 等）
	1-5	~~・AI（人工知能）の概要（人工知能の定義・概要，研究の歴史　等）（2回目）~~ ~~データサイエンスのサイクル、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介~~ 【第3回】データ・AI の活用領域と利活用の現場（データ・AI の活用領域の広がり，流通・製造・金融等の現場におけるデータ・AI の活用事例，公的統計・企業データを用いた課題解決・データ分析 等）

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	~~・AIと社会(法律，倫理，プライバシーの保護　等)(14回目)~~ 【第13回】データ・AI 利活用における留意事項(ELSI，GDPR，AI 倫理，情報セキュリティとプライバシー、個人情報の保護)
	3-2	~~AIと社会(法律，倫理，プライバシーの保護　等)(14回目)~~ 【第13回】データ・AI 利活用における留意事項(ELSI，GDPR，AI 倫理，情報セキュリティとプライバシー、個人情報の保護)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	~~・ビッグデータの統計分析の基礎(ビッグデータの定義，分析手法の概要　等)(3回目)~~ ~~・機械学習の準備①(基礎数学，確率統計の要点　等)(4回目)~~ ~~データの種類、データの分布と代表値、相関と因果、母集団と標本抽出、統計情報の正しい理解など~~ 【第5回】データの読み方・説明の仕方・扱い方(記述統計、データ解析、データの分布、代表値、データ表現、データの比較、データの集計、デー タの可視化・加工 等)
	2-2	~~・ビッグデータの統計分析の基礎(ビッグデータの定義，分析手法の概要　等)(3回目)~~ ~~・時系列データ解析の基礎(データの平滑化，状態空間モデル　等)(13回目)~~ ~~データ表現、データの図表表現、データの比較、優れた可視化事例の紹介など~~ 【第5回】データの読み方・説明の仕方・扱い方(記述統計、データ解析、データの分布、代表値、データ表現、データの比較、データの集計、デー タの可視化・加工 等)
	2-3	~~・ビッグデータの統計分析の基礎(ビッグデータの定義，分析手法の概要　等)(3回目)~~ ~~データの集計、データの並び替え、ランキング、データ解析シート、表形式のデータ(csv)など~~ 【第5回】データの読み方・説明の仕方・扱い方(記述統計、データ解析、データの分布、代表値、データ表現、データの比較、データの集計、デー タの可視化・加工 等)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事に活用する基礎的素養を身に付ける。 数理・データサイエンス・AIに関する知識や技能を人間社会に適切に活用し、AI等の恩恵を享受するとともに、これらを説明・活用することができる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容　※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、**「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」**(2024年2月　数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

シラバス参照

年度	2026
講義コード	14Z0100105
科目名	データサイエンス入門（仏教・経済・経営・法）
開講期	1期集中
期間・曜日・時限	1期集中 その他 集中
担当者氏名	高部　勲
履修年次	1年生
単位数	2
科目分類	卒業
分野系列	（選択科目）
履修前提条件	
事前登録の有無 （表示が無い場合は事前登録なし）	なし
校舎	品川キャンパス
授業形態	講義

授業の目的	近年，めざましい成果を上げている数理・データサイエンス・AIの入門として，社会で起きている様々な変化と数理・データサイエンス・AIの利活用の動向，利活用の際の留意事項について学ぶ．また，様々なデータの種類とそれらを活用するための数理・データサイエンス・AIの方法について学ぶとともに，実際のデータを活用した分析方法についても演習を行う．
到達目標	・社会で起きている様々な変化と数理・データサイエンス・AIの利活用の動向，利活用の際の留意事項を結び付けて理解し、説明することができる． ・様々なデータの種類や利活用方法について理解する． ・数理・データサイエンス・AIに用いられている分析手法の特徴・概要について理解し，説明することができる．
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義内容の復習を中心に，60 時間以上の授業外学修を行うこと．
授業計画	【第1回】社会で起きている変化とデータ・AI の利活用の最新動向（Society 5.0，データ駆動型社会，AI リテラシー 等） 【第2回】社会で活用されているデータ（データの種類、構造化・非構造化データ，ビッグデータ 等） 【第3回】データ・AI の活用領域と利活用の現場（データ・AI の活用領域の広がり，流通・製造・金融等の現場におけるデータ・AI の活用事例，公的統計・企業データを用いた課題解決・データ分析 等） 【第4回】数学・統計の基礎（ベクトル・行列・微分積分の基礎、確率分布、推測統計 等） 【第5回】データの読み方・説明の仕方・扱い方（記述統計、データ解析、データの分布、代表値、データ表現、データの比較、データの集計、データの可視化・加工 等） 【第6回】機械学習の基礎（教師あり学習・教師なし学習・強化学習，モデルの評価 等） 【第7回】教師あり学習：分類（判別分析，ロジスティック回帰，決定木，集団学習，線形回帰モデル，変数選択，高次元回帰 等） 【第8回】教師なし学習（クラスタリング，高次元データの次元削減 等） 【第9 回】ニューラルネットワークと深層学習 【第10 回】画像データの解析（画像認識と深層学習、畳み込みニューラルネットワーク 等） 【第11 回】時系列データの解析（移動平均，自己相関，状態空間モデル，音声データ 等） 【第12 回】テキストデータの解析（テキスト情報の可視化，自然言語処理 等） 【第13 回】データ・AI 利活用における留意事項（ELSI，GDPR，AI 倫理，情報セキュリティとプライバシー、個人情報の保護）
成績評価の方法	授業中の小テスト（60%）及び授業への取組姿勢（40%）により成績を評価する．
フィードバックの内容	課題等の採点結果は各回の授業時にフィードバックするので，必ず確認し成績評価の参考にすること．
授業実施形態について	【メディア授業】 基本的にオンライン形式で実施する．オンデマンド型や資料配付型で実施する．詳細は、授業において案内する．
教科書	

No	書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN

1.	『授業時に資料を配布する. 』				

指定図書

No	書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN
1.	『各回の授業時に紹介する. 』				

参考書

No	書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN
1.	『ディープラーニングG（ジェネラリスト）検定公式テキスト』	浅川伸一ほか	翔泳社	2018	
2.	『ディープラーニング活用の教科書』	日経クロストレンド編	日経BP社	2018	
3.	『人工知能は人間を超えるのか』	松尾豊	KADOKAWA	2015	
4.	『AI 白書2023』	独立行政法人情報処理推進機構AI白書編集委員会	KADOKAWA	2023	

教員からのお知らせ	授業には積極的に参加すること.
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は学部学科に定めるオフィスアワーにて対応します.
アクティブ・ラーニングの内容	意見共有
実践的な教育内容	・総務省統計局統計データ利活用センターのセンター長などを歴任した教員が、その経験を活かしてデータサイエンスにかかわる講義を行う.
その他	・行政機関・企業等との協定に基づき提供された実際のデータを活用した当該組織の課題解決に資するデータ分析についても学ぶ. ・独立行政法人統計センターが提供する「SSDSE（教育用標準データセット）」、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが提供するe-ラーニング教材などのオープンな教材を一部活用して講義動画を作成している.
参考URL	
画像	
ファイル	
更新日付	2026/02/27 16:41

シラバス参照

年度	2026
講義コード	14Z0100102
科目名	データサイエンス入門（文・心理）
開講期	2期集中
期間・曜日・時限	2期集中 その他 集中
担当者氏名	高部　勲
履修年次	1年生
単位数	2
科目分類	卒業
分野系列	＜一般教育科目＞
履修前提条件	
事前登録の有無 （表示が無い場合は事前登録なし）	なし
校舎	品川キャンパス
授業形態	講義

授業の目的	近年，めざましい成果を上げている数理・データサイエンス・AIの入門として，社会で起きている様々な変化と数理・データサイエンス・AIの利活用の動向，利活用の際の留意事項について学ぶ．また，様々なデータの種類とそれらを活用するための数理・データサイエンス・AIの方法について学ぶとともに，実際のデータを活用した分析方法についても演習を行う．
到達目標	・社会で起きている様々な変化と数理・データサイエンス・AIの利活用の動向，利活用の際の留意事項を結び付けて理解し、説明することができる． ・様々なデータの種類や利活用方法について理解する． ・数理・データサイエンス・AIに用いられている分析手法の特徴・概要について理解し，説明することができる．
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義内容の復習を中心に，60 時間以上の授業外学修を行うこと．
授業計画	【第1回】社会で起きている変化とデータ・AI の利活用の最新動向（Society 5.0，データ駆動型社会，AI リテラシー 等） 【第2回】社会で活用されているデータ（データの種類、構造化・非構造化データ，ビッグデータ 等） 【第3回】データ・AI の活用領域と利活用の現場（データ・AI の活用領域の広がり，流通・製造・金融等の現場におけるデータ・AI の活用事例，公的統計・企業データを用いた課題解決・データ分析 等） 【第4回】数学・統計の基礎（ベクトル・行列・微分積分の基礎、確率分布、推測統計 等） 【第5回】データの読み方・説明の仕方・扱い方（記述統計、データ解析、データの分布、代表値、データ表現、データの比較、データの集計、データの可視化・加工 等） 【第6回】機械学習の基礎（教師あり学習・教師なし学習・強化学習，モデルの評価 等） 【第7回】教師あり学習：分類（判別分析，ロジスティック回帰，決定木，集団学習，線形回帰モデル，変数選択，高次元回帰 等） 【第8回】教師なし学習（クラスタリング，高次元データの次元削減 等） 【第9 回】ニューラルネットワークと深層学習 【第10 回】画像データの解析（画像認識と深層学習、畳み込みニューラルネットワーク 等） 【第11 回】時系列データの解析（移動平均，自己相関，状態空間モデル，音声データ 等） 【第12 回】テキストデータの解析（テキスト情報の可視化，自然言語処理 等） 【第13 回】データ・AI 利活用における留意事項（ELSI，GDPR，AI 倫理，情報セキュリティとプライバシー、個人情報の保護）
成績評価の方法	授業中の小テスト（60%）及び授業への取組姿勢（40%）により成績を評価する．
フィードバックの内容	課題等の採点結果は各回の授業時にフィードバックするので，必ず確認し成績評価の参考にすること．
授業実施形態について	【メディア授業】 基本的にオンライン形式で実施する．オンデマンド型や資料配付型で実施する．詳細は、授業において案内する．
教科書	

No	書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN

1.	『授業時に資料を配布する. 』				

指定図書

No	書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN
1.	『各回の授業時に紹介する. 』				

参考書

No	書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN
1.	『ディープラーニングG（ジェネラリスト）検定公式テキスト』	浅川伸一ほか	翔泳社	2018	
2.	『ディープラーニング活用の教科書』	日経クロストレンド編	日経BP社	2018	
3.	『人工知能は人間を超えるのか』	松尾豊	KADOKAWA	2015	
4.	『AI 白書2023』	独立行政法人情報処理推進機構AI白書編集委員会	KADOKAWA	2023	

教員からのお知らせ	授業には積極的に参加すること.
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は学部学科に定めるオフィスアワーにて対応します.
アクティブ・ラーニングの内容	意見共有
実践的な教育内容	・総務省統計局統計データ利活用センターのセンター長などを歴任した教員が、その経験を活かしてデータサイエンスにかかわる講義を行う.
その他	・行政機関・企業等との協定に基づき提供された実際のデータを活用した当該組織の課題解決に資するデータ分析についても学ぶ. ・独立行政法人統計センターが提供する「SSDSE（教育用標準データセット）」、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが提供するe-ラーニング教材などのオープンな教材を一部活用して講義動画を作成している.
参考URL	
画像	
ファイル	
更新日付	2026/02/27 16:41

シラバス参照

年度	2026
講義コード	24Z0100201
科目名	データサイエンス入門（社会福祉学部・地球環境科学部）
開講期	2期集中
期間・曜日・時限	2期集中 その他 集中
担当者氏名	高部　勲
履修年次	1年生
単位数	2
科目分類	卒業
分野系列	＜一般教育科目＞
履修前提条件	
事前登録の有無 （表示が無い場合は事前登録なし）	なし
校舎	熊谷キャンパス
授業形態	講義

授業の目的	近年，めざましい成果を上げている数理・データサイエンス・AIの入門として，社会で起きている様々な変化と数理・データサイエンス・AIの利活用の動向，利活用の際の留意事項について学ぶ．また，様々なデータの種類とそれらを活用するための数理・データサイエンス・AIの方法について学ぶとともに，実際のデータを活用した分析方法についても演習を行う．
到達目標	・社会で起きている様々な変化と数理・データサイエンス・AIの利活用の動向，利活用の際の留意事項を結び付けて理解し、説明することができる． ・様々なデータの種類や利活用方法について理解する． ・数理・データサイエンス・AIに用いられている分析手法の特徴・概要について理解し，説明することができる．
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義内容の復習を中心に，60 時間以上の授業外学修を行うこと．
授業計画	【第1回】社会で起きている変化とデータ・AI の利活用の最新動向（Society 5.0，データ駆動型社会，AI リテラシー 等） 【第2回】社会で活用されているデータ（データの種類、構造化・非構造化データ，ビッグデータ 等） 【第3回】データ・AI の活用領域と利活用の現場（データ・AI の活用領域の広がり，流通・製造・金融等の現場におけるデータ・AI の活用事例，公的統計・企業データを用いた課題解決・データ分析 等） 【第4回】数学・統計の基礎（ベクトル・行列・微分積分の基礎、確率分布、推測統計 等） 【第5回】データの読み方・説明の仕方・扱い方（記述統計、データ解析、データの分布、代表値、データ表現、データの比較、データの集計、データの可視化・加工 等） 【第6回】機械学習の基礎（教師あり学習・教師なし学習・強化学習，モデルの評価 等） 【第7回】教師あり学習：分類（判別分析，ロジスティック回帰，決定木，集団学習，線形回帰モデル，変数選択，高次元回帰 等） 【第8回】教師なし学習（クラスタリング，高次元データの次元削減 等） 【第9 回】ニューラルネットワークと深層学習 【第10 回】画像データの解析（画像認識と深層学習、畳み込みニューラルネットワーク 等） 【第11 回】時系列データの解析（移動平均，自己相関，状態空間モデル，音声データ 等） 【第12 回】テキストデータの解析（テキスト情報の可視化，自然言語処理 等） 【第13 回】データ・AI 利活用における留意事項（ELSI，GDPR，AI 倫理，情報セキュリティとプライバシー、個人情報の保護）
成績評価の方法	授業中の小テスト（60%）及び授業への取組姿勢（40%）により成績を評価する．
フィードバックの内容	課題等の採点結果は各回の授業時にフィードバックするので，必ず確認し成績評価の参考にすること．
授業実施形態について	【メディア授業】 基本的にオンライン形式で実施する．オンデマンド型や資料配付型で実施する．詳細は、授業において案内する．
教科書	

No	書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN

1.	『授業時に資料を配布する. 』				

指定図書

No	書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN
1.	『各回の授業時に紹介する. 』				

参考書

No	書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN
1.	『ディープラーニングG（ジェネラリスト）検定公式テキスト』	浅川伸一ほか	翔泳社	2018	
2.	『ディープラーニング活用の教科書』	日経クロストレンド編	日経BP社	2018	
3.	『人工知能は人間を超えるのか』	松尾豊	KADOKAWA	2015	
4.	『AI 白書2023』	独立行政法人情報処理推進機構AI白書編集委員会	KADOKAWA	2023	

教員からのお知らせ	授業には積極的に参加すること.
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は学部学科に定めるオフィスアワーにて対応します.
アクティブ・ラーニングの内容	意見共有
実践的な教育内容	・総務省統計局統計データ利活用センターのセンター長などを歴任した教員が、その経験を活かしてデータサイエンスにかかわる講義を行う.
その他	・行政機関・企業等との協定に基づき提供された実際のデータを活用した当該組織の課題解決に資するデータ分析についても学ぶ. ・独立行政法人統計センターが提供する「SSDSE（教育用標準データセット）」、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが提供するe-ラーニング教材などのオープンな教材を一部活用して講義動画を作成している.
参考URL	
画像	
ファイル	
更新日付	2026/02/27 16:41

シラバス参照

年度	2026
講義コード	21K0130501
科目名	データサイエンス入門／AI入門 I
開講期	1期
期間・曜日・時限	1期 土曜日 4時限 オンライン授業
担当者氏名	高部　勲
履修年次	1年生
単位数	2
科目分類	卒業
分野系列	＜専門基礎科目群＞
履修前提条件	
事前登録の有無 (表示が無い場合は事前登録なし)	なし
校舎	熊谷キャンパス
授業形態	講義

授業の目的	近年，めざましい成果を上げている数理・データサイエンス・AIの入門として，社会で起きている様々な変化と数理・データサイエンス・AIの利活用の動向，利活用の際の留意事項について学ぶ．また，様々なデータの種類とそれらを活用するための数理・データサイエンス・AIの方法について学ぶとともに，実際のデータを活用した分析方法についても演習を行う．
到達目標	・社会で起きている様々な変化と数理・データサイエンス・AIの利活用の動向，利活用の際の留意事項を結び付けて理解し、説明することができる． ・様々なデータの種類や利活用方法について理解する． ・数理・データサイエンス・AIに用いられている分析手法の特徴・概要について理解し，説明することができる．
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義内容の復習を中心に，60 時間以上の授業外学修を行うこと．
授業計画	【第1回】社会で起きている変化とデータ・AI の利活用の最新動向（Society 5.0，データ駆動型社会，AI リテラシー 等） 【第2回】社会で活用されているデータ（データの種類、構造化・非構造化データ，ビッグデータ 等） 【第3回】データ・AI の活用領域と利活用の現場（データ・AI の活用領域の広がり，流通・製造・金融等の現場におけるデータ・AI の活用事例，公的統計・企業データを用いた課題解決・データ分析 等） 【第4回】数学・統計の基礎（ベクトル・行列・微分積分の基礎、確率分布、推測統計 等） 【第5回】データの読み方・説明の仕方・扱い方（記述統計、データ解析、データの分布、代表値、データ表現、データの比較、データの集計、データの可視化・加工 等） 【第6回】機械学習の基礎（教師あり学習・教師なし学習・強化学習，モデルの評価 等） 【第7回】教師あり学習：分類（判別分析，ロジスティック回帰，決定木，集団学習，線形回帰モデル，変数選択，高次元回帰 等） 【第8回】教師なし学習（クラスタリング，高次元データの次元削減 等） 【第9 回】ニューラルネットワークと深層学習 【第10 回】画像データの解析（画像認識と深層学習、畳み込みニューラルネットワーク 等） 【第11 回】時系列データの解析（移動平均，自己相関，状態空間モデル，音声データ 等） 【第12 回】テキストデータの解析（テキスト情報の可視化，自然言語処理 等） 【第13 回】データ・AI 利活用における留意事項（ELSI，GDPR，AI 倫理，情報セキュリティとプライバシー、個人情報の保護）
成績評価の方法	授業中の小テスト（60%）及び授業への取組姿勢（40%）により成績を評価する．
フィードバックの内容	課題等の採点結果は各回の授業時にフィードバックするので，必ず確認し成績評価の参考にすること．
授業実施形態について	【メディア授業】 基本的にオンライン形式で実施する．オンデマンド型や資料配付型で実施する．詳細は、授業において案内する．
教科書	

No	書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN

1.	『授業時に資料を配布する. 』				

指定図書

No	書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN
1.	『各回の授業時に紹介する. 』				

参考書

No	書籍名	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN
1.	『ディープラーニングG（ジェネラリスト）検定公式テキスト』	浅川伸一ほか	翔泳社	2018	
2.	『ディープラーニング活用の教科書』	日経クロストレンド編	日経BP社	2018	
3.	『人工知能は人間を超えるのか』	松尾豊	KADOKAWA	2015	
4.	『AI 白書2023』	独立行政法人情報処理推進機構AI白書編集委員会	KADOKAWA	2023	

教員からのお知らせ	授業には積極的に参加すること.
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は学部学科に定めるオフィスアワーにて対応します.
アクティブ・ラーニングの内容	意見共有
実践的な教育内容	・総務省統計局統計データ利活用センターのセンター長などを歴任した教員が、その経験を活かしてデータサイエンスにかかわる講義を行う.
その他	・行政機関・企業等との協定に基づき提供された実際のデータを活用した当該組織の課題解決に資するデータ分析についても学ぶ. ・独立行政法人統計センターが提供する「SSDSE（教育用標準データセット）」、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが提供するe-ラーニング教材などのオープンな教材を一部活用して講義動画を作成している.
参考URL	
画像	
ファイル	
更新日付	2026/02/27 16:41

教養的科目とその履修方法

教養的科目とは一般教育科目・発展教養科目・外国語科目をいう。

一般教育科目・発展教養科目とその履修方法

一般教育科目・発展教養科目の卒業基準単位数は合計20単位以上である。

一般教育科目のなかで、1年次には「学修の基礎Ⅰ」「学修の基礎Ⅱ」の2科目4単位を修得することが必要である。他の科目は指定された年次で選択履修する。

教職課程を履修する者は、一般教育科目の「法学入門」を修得することが必要である。

「海外語学留学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は、短期留学の単位認定科目である。

発展教養科目は、教職資格取得のために必要な科目の一部を、学部の教養的科目（卒業基準単位）として、年間・学期履修登録単位数の上限の範囲で履修できるものである。各科目はそれぞれの分野の専門性に踏み込んだものであるので、単位の修得には相応の努力が必要であることを自覚した上で履修すること。

一般教育科目・発展教養科目

	授業科目	単位	履修年次	備考
一般教育科目	学修の基礎Ⅰ	2	1	必修
	学修の基礎Ⅱ	2	1	必修
	データサイエンス入門	2	1	メディア授業
	仏教入門	2	1・2	メディア授業
	仏教と人間	2	1・2	メディア授業
	教養基礎	2	1・2	
	教養総合	2	1・2	
	情報基礎1	2	1・2	※教職課程履修者はいずれか必修
	情報基礎2	2	1・2	※教職課程履修者はいずれか必修
	文学入門	2	1・2	
	文学の世界	2	1・2	
	歴史と文化	2	1・2	
	歴史の世界	2	1・2	
	哲学入門	2	1・2	
	哲学概論	2	1・2	
	社会学概説	2	1・2	
	社会学の基礎	2	1・2	
	心理学	2	1・2	メディア授業
	心理学理論と心理的支援	2	1・2	メディア授業
	法学入門	2	1・2	※教職課程履修者は必修
	法律学概説	2	1・2	
	政治学概説	2	1・2	
	現代日本の政治と社会	2	1・2	
	経済学概説	2	1・2	
	経済学と社会	2	1・2	
	統計学序説	2	1・2	

2．一般教育科目の履修方法

一般教育科目には下表の科目があり、文学部生は「学修の基礎Ⅰ」２単位を必ず修得すること。その他の一般教育科目については自由に選択・履修することができる。

なお、教員免許状の取得を希望する者は、「法学入門」を必ず修得すること。

また、留学生は「日本事情１」「日本事情２」「日本事情３」「日本事情４」が必修科目である。

授業科目	単位	履修学年	備考
一般教育科目			
学修の基礎Ⅰ	2	1	必修科目
仏教入門	2	1・2	メディア授業
仏教と人間	2	1・2	メディア授業
哲学入門	2	1・2	
哲学概論	2	1・2	
歴史と文化	2	1・2	
歴史の世界	2	1・2	
文学入門	2	1・2	
文学の世界	2	1・2	
法学入門	2	1・2	
法律学概説	2	1・2	
政治学概説	2	1・2	
現代日本の政治と社会	2	1・2	
経済学概説	2	1・2	
経済学と社会	2	1・2	
統計学序説	2	1・2	
統計学概説	2	1・2	
社会学概説	2	1・2	
社会学の基礎	2	1・2	
数学の世界	2	1・2	
心理学	2	1・2	
心理学理論と心理的支援	2	1・2	
教養基礎	2	1・2	
教養総合	2	1・2	
環境科学	2	1・2	
データサイエンス入門	2	1・2	メディア授業
日本事情1	2	1・2	留学生必修科目（留学生のみ）
日本事情2	2	1・2	留学生必修科目（留学生のみ）
日本事情3	2	1・2	留学生必修科目（留学生のみ）
日本事情4	2	1・2	留学生必修科目（留学生のみ）

5．進級要件

２年次から３年次に進級するには、次の条件を満たしていなければならない。

進級要件単位	50単位以上（自由科目、総合語学演習１～４、特別語学演習１～４は含まない）
進級要件科目	以下の13科目中、７科目以上 ・学修の基礎Ⅰ　・情報基礎１　・情報基礎２ ・英語リーディング１　・英語リーディング２ ・英語リスニング１　・英語リスニング２　・数学基礎 ・統計学基礎　・ミクロ経済学基礎　・マクロ経済学基礎 ・マルクス経済学基礎　・経済史基礎

※留学生は英語科目に代わる日本語科目でも可

6．単位の修得

(a)　学年初めに履修登録してある科目について、試験その他の学修状況により、一定の基準に達した場合、所定の単位が与えられる。
(b)　試験は原則として筆記試験を行うが、レポート等をもってこれに代える場合もある。
(c)　レポート等は、担当教員が指示する日時までに、指定された方法で提出しなければならない。指定された日時・方法が守られなかった場合には受理されない。

〔２〕教養的科目の種類と履修方法

経済学部が開設する教養的科目は、履修上の取扱い、科目の内容などに関して、次のような種類がある。
原則として１・２年次において履修する。20単位以上を修得しなければならない。

1．必修科目（10単位）

経済学部の学生すべてが、指定された年次に必ず履修し単位を修得しなければならない科目で、卒業に不可欠の科目である。内訳は以下の通り。

(a)　英語科目（４単位）
英語リーディング１・２、英語リスニング１・２の４単位が必修である。なお、留学生は選択科目の日本語１～４を英語に代えて選択履修できる。
(b)　情報基礎１、情報基礎２（各２単位）
１年次に配当され、クラスが指定されている。
(c)　学修の基礎Ⅰ（２単位）
１年次に配当され、クラスが指定されている。

2．履修義務科目（４単位）

１年次生は入学時にいずれかの学修の基礎Ⅱ（２期）のクラスに配当される。学修の基礎Ⅱと**データサイエンス入門は、１年次生全員が履修しなければならない履修義務科目である。**

3．選択必修科目（４単位）

１年次から４年次に配当されている。選択必修科目の中より４単位以上を卒業までに履修し単位を修得しな

経営学部教養的科目表

区分	科目名	単位	履修年次	備考
必修科目	学修の基礎Ⅰ	2	1	メディア授業
	情報処理演習Ⅰ	2	1	
	情報処理演習Ⅱ	2	1	
選択必修科目	Academic English Ⅰ	1	1	「Academic English Ⅰ・Ⅱ」「English Reading Ⅰ・Ⅱ」「English Communication Ⅰ・Ⅱ」のいずれか一つの組み合わせを選択し履修すること。科目選択は入学年度のみ行い、再履修となった場合は「English Reading Ⅰ・Ⅱ(再履修クラス)」を履修すること。
	Academic English Ⅱ	1	1	
	English Reading Ⅰ	1	1	
	English Reading Ⅱ	1	1	
	English Communication Ⅰ	1	1	
	English Communication Ⅱ	1	1	
選択科目	マクロ経済学	2	1	
	ミクロ経済学	2	1	
	商法	2	1	
	会社法	2	1	
	法学	2	1	
	憲法	2	1	教職課程履修者は修得必須
	民法Ⅰ	2	1	
	民法Ⅱ	2	1	
	社会学Ⅰ	2	1	
	社会学Ⅱ	2	1	
	心理学Ⅰ	2	1	
	心理学Ⅱ	2	1	
	近代日本経済史	2	1	
	金融論	2	1	
	高齢化とキャリア	2	1	
	産業論	2	1	
	社会福祉論	2	1	
	情報と社会・モラル・知的所有権	2	1	
	比較宗教論	2	1	
	データサイエンス入門	2	1	メディア授業
	Current Global Issues	2	1	
	英語圏の文化とことば	2	1	
	中国語と文化Ⅰ	4	1	
	中国語と文化Ⅱ	4	1	
	韓国語と文化Ⅰ	4	1	
	韓国語と文化Ⅱ	4	1	
	日本語と文化Ⅰ	2	1	留学生用科目
	日本語と文化Ⅱ	2	1	留学生用科目

法学部卒業要件単位数

科目群		必修 選択	主な科目 （カッコ内は単位数）	卒業要件		
				必修 選択必修 単位数	小計	総計
教養的科目	特定教養科目群	必修	学修の基礎Ⅰ(2)	2単位	26単位 以上	128単位 以上
		選択必修	立正大学と石橋湛山(2)　仏教入門(2) 仏教と人間(2)　データサイエンス入門(2)	4単位 以上		
		選択	アカデミック・ライティングⅠ(2) アカデミック・ライティングⅡ(2) ライティング・スキル(2) 情報処理の基礎(2)　情報処理の応用(2) 情報セキュリティ(2)			
	外国語科目群	選択必修	英語Ⅰ(2)　英語Ⅱ(2)　フランス語(2) ドイツ語(2)　中国語(2)　ハングル(2)	4単位 以上		
	一般教育科目群	選択	哲学とは何か(2)　倫理学とは何か(2) 芸術入門(2)　文学入門(2) 日本史概論(2)　地理学概論(2) 社会学概説(2)　心理学概説(2) 環境科学(2)　体育講義(2)　など			
専門科目	共通選択必修科目群	選択必修	学修の基礎Ⅱ(2)　憲法入門(2) 刑法入門(2)　民法入門(2) 政治学入門(2)　憲法［人権］(4) 刑法総論(4)　民法総則(4) 基礎ゼミナールⅠ(2)　基礎ゼミナールⅡ(2) ゼミナールⅠ(2)　ゼミナールⅡ(2)	16単位 以上	92単位 以上	
	特修選択必修科目群	特修 コースは 選択必修	公法展開演習(2)　私法展開演習(2) 特修演習1(2)　特修演習2(2) 特修演習3(2)　特修演習4(2)	特修 コースは 8単位 以上		
	コース別 選択必修科目群 （社会公共コース）	社会公共 コースは 選択必修	社会安全法制史(2)　犯罪学(2) 市民協働論(2)　ジェンダー法(2) 東洋法思想史(2)　少年法(2)　外国人法(2)	社会公共 コースは 6単位 以上		
	コース別 選択必修科目群 （ビジネス法コース）	ビジネス法 コースは 選択必修	会社法(4)　会社法［ガバナンス］(2) 企業と危機管理(2)　企業会計法(2) 支払決済法(2)　金融商品取引法(2) 労使関係法(2)	ビジネス法 コースは 6単位 以上		
	共通専門科目群	選択	ゼミナールⅢ(2)　ゼミナールⅣ(2) ゼミナールⅤ(2)　ゼミナールⅥ(2) ゼミナール論文(2)　法哲学(2) 日本法史(4)　憲法［総論・統治機構］(4) 行政法総論(2)　税法(4)　国際法(4) 経済法(4)　刑法各論(4)　刑事訴訟法(4) 刑事政策(4)　物権法(2)　債権法総論(2) 契約法(2)　家族法(4)　民事訴訟法(4) 企業法総論(2)　政治学(2)　行政学(4) 社労士実務演習(2) 士業実務フィールドワーク(2)　など			

する制度があるので、入学後すみやかに学部事務室へ申し出ること。

〔2〕教養的科目の履修について

社会福祉学は学際的な総合科学であり、幅広い諸科学に基礎づけられる必要がある。そこで、社会福祉学部では教養的科目の履修を重視し、卒業基準単位数を合計24単位に定めている。一般教育科目・外国語科目・保健体育科目・キャリア開発科目の中から、24単位以上を履修する。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ」は必修科目である。外国語科目については、社会福祉学科では英語（基礎英語1・基礎英語2・総合英語1・総合英語2・基礎英会話1・基礎英会話2）の中より4科目4単位以上を選択履修し、修得しなければならない。子ども教育福祉学科では英語（基礎英語1・基礎英語2・基礎英会話1・基礎英会話2）の4科目4単位を履修し、修得しなければならない。履修については各学科の指導に従うこと。

教養的科目

区分	授業科目	履修年次	単位	備考	
一般教育科目	学修の基礎Ⅰ	1	2	必修	24単位以上
	哲学Ⅰ	1	2		
	哲学Ⅱ	1	2		
	仏教学Ⅰ	1	2		
	仏教学Ⅱ	1	2		
	歴史学Ⅰ	1	2		
	歴史学Ⅱ	1	2		
	文学Ⅰ	1	2		
	文学Ⅱ	1	2		
	社会学Ⅰ	1	2		
	社会学Ⅱ	1	2		
	法学	1	2		
	日本国憲法	1	2		
	心理学Ⅰ	1	2		
	心理学Ⅱ	1	2		
	経済学Ⅰ	1	2		
	経済学Ⅱ	1	2		
	統計論	1	2		
	自然科学論Ⅰ	1	2		
	自然科学論Ⅱ	1	2		
	政治学Ⅰ	1	2		
	政治学Ⅱ	1	2		
	生物学	1	2		
	情報処理の基礎Ⅰ	1	2		
	情報処理の基礎Ⅱ	1	2		
	データサイエンス入門	1	2	メディア	

区分	授業科目	単位数	標準履修学年	備考
一般教育科目群	外国史概論	2	2	
	地理学概論	2	1	
	地誌学概論	2	1	
	文学入門	2	1	
	比較文学論	2	1	
	心理学概説Ⅰ	2	1	
	心理学概説Ⅱ	2	1	
	発達心理学入門	2	1	
	法学入門（日本国憲法を含む）	2	1	
	法律学概説	2	1	
	政治学概説	2	1	
	現代日本の政治と社会	2	1	
	経済学概説	2	1	
	現代日本の経済と社会	2	1	
	統計学の基礎	2	2	
	統計学の世界	2	2	
	社会学概説Ⅰ	2	1	
	社会学概説Ⅱ	2	1	
	環境社会学入門	2	1	
	環境科学	2	1	
	生物学の世界	2	1	
	生物多様性と社会	2	1	
	地学の世界	2	1	
	物理学の世界	2	1	
	データサイエンス入門	2	1	メディア授業
	化学の世界	2	1	
	情報社会と倫理	2	1	
	情報文化と知的所有権	2	1	
	データサイエンス応用基礎・AIの世界	2	1	メディア授業
外国語コミュニケーション科目群	実践英語1	2	2	
	実践英語2	2	2	
	実践英語3	2	3	
	実践英語4	2	3	
	ドイツの言語と文化Ⅰ	2	1	注1
	ドイツの言語と文化Ⅱ	2	1	注1
	フランスの言語と文化Ⅰ	2	1	注1
	フランスの言語と文化Ⅱ	2	1	注1
	中国の言語と文化Ⅰ	2	1	注1
	中国の言語と文化Ⅱ	2	1	注1
	コリアの言語と文化Ⅰ	2	1	注1

教養的科目	選択科目	異文化コミュニケーション群	②	Practical English Ⅰ	1	1		
				Practical English Ⅱ	1	1		
				Advanced English Ⅰ	1	1		
				Advanced English Ⅱ	1	1		
				ドイツの文化とことば	2	1		
				フランスの文化とことば	2	1		
				中国の文化とことば	2	1		
				コリアの文化とことば	2	1		
				英語圏の文化とことば	2	1		
				ドイツ語Ⅰ	1	2		※前提科目あり
				ドイツ語Ⅱ	1	2		※前提科目あり
				フランス語Ⅰ	1	2		※前提科目あり
				フランス語Ⅱ	1	2		※前提科目あり
				中国語Ⅰ	1	2		※前提科目あり
				中国語Ⅱ	1	2		※前提科目あり
				ハングルⅠ	1	2		※前提科目あり
				ハングルⅡ	1	2		※前提科目あり
				海外語学研修Ⅰ	1	1		
				海外語学研修Ⅱ	1	1		
				海外語学研修Ⅲ	1	1		
				海外語学研修Ⅳ	1	1		
				海外語学留学Ⅰ	2	1		
				海外語学留学Ⅱ	2	1		
				海外語学留学Ⅲ	2	1		
				海外語学留学Ⅳ	2	1		
				海外留学	4	1		
				日本語Ⅰ	1	1		※留学生のみ可
				日本語Ⅱ	1	1		※留学生のみ可
				日本語Ⅲ	1	2		※留学生のみ可
				日本語Ⅳ	1	2		※留学生のみ可
				日本事情Ⅰ	2	1	○	※留学生のみ可
				日本事情Ⅱ	2	1	○	※留学生のみ可
		キャリアスキル群		データサイエンス入門	2	1	○	
				情報処理の基礎	2	1		
				ライフ・キャリア概論	2	1	○	
				キャリア・デザイン入門	2	1		
				体育講義	2	1		
				体育実技	1	1		

・「③相互履修科目」については、本冊子「13. 学部間相互履修科目とその履修方法」にて、対象科目、単位、履修年度等を確認すること。

教養的科目	選択科目	異文化コミュニケーション群	②	フランス語Ⅰ	1	2		※前提科目あり
				フランス語Ⅱ	1	2		※前提科目あり
				中国語Ⅰ	1	2		※前提科目あり
				中国語Ⅱ	1	2		※前提科目あり
				ハングルⅠ	1	2		※前提科目あり
				ハングルⅡ	1	2		※前提科目あり
				海外語学研修Ⅰ	1	1		
				海外語学研修Ⅱ	1	1		
				海外語学研修Ⅲ	1	1		
				海外語学研修Ⅳ	1	1		
				海外語学留学Ⅰ	2	1		
				海外語学留学Ⅱ	2	1		
				海外語学留学Ⅲ	2	1		
				海外語学留学Ⅳ	2	1		
				海外留学	4	1		
				日本語Ⅰ	1	1		※留学生のみ可
				日本語Ⅱ	1	1		※留学生のみ可
				日本語Ⅲ	1	2		※留学生のみ可
				日本語Ⅳ	1	2		※留学生のみ可
				日本事情Ⅰ	2	1	○	※留学生のみ可
				日本事情Ⅱ	2	1	○	※留学生のみ可
		キャリアスキル群		データサイエンス入門	2	1	○	
				情報処理の基礎	2	1		
				ライフ・キャリア概論	2	1	○	
				キャリア・デザイン入門	2	1		

・「③相互履修科目」については、本冊子「13. 学部間相互履修科目とその履修方法」にて、対象科目、単位、履修年度等を確認すること。

●専門科目

科目区分			授業科目	履修年次	期間	単位数	備考
専門科目	専門基礎科目群		情報リテラシーⅠ	1	半期	2	必修・メディア授業
			情報リテラシーⅡ	1	半期	2	必修
			データサイエンス入門	1	半期	2	必修・メディア授業
			データサイエンス応用基礎・AIの世界	1	半期	2	必修・メディア授業
			プログラミングへの招待	1	半期	2	必修
			プログラミングⅠ	1	半期	2	
			数学への招待	1	半期	2	必修
			微分積分学	1	半期	2	必修
			微分積分学演習	1	半期	2	
			統計入門	1	半期	2	必修
			統計学および実習Ⅰ	1	半期	2	必修
			データサイエンスの世界	1	半期	2	必修・メディア授業
			ビジネスデータサイエンス	1	半期	2	必修
			観光とデータサイエンス	1	半期	2	メディア授業
			自然科学・GISとデータサイエンス	1	半期	2	
			スポーツデータサイエンス	1	半期	2	
	データサイエンス科目群	データサイエンス基礎	マルチメディア	2	半期	2	
			データベース	2	半期	2	
			機械学習Ⅰ	2	半期	2	
			プログラミングⅡ	2	半期	2	
			プログラミングⅢ	2	半期	2	
			線形代数学	2	半期	2	
			線形代数学演習	2	半期	2	
			幾何学	2	半期	2	
			応用数学	2	半期	2	
			統計学および実習Ⅱ	2	半期	2	必修
			統計学および実習Ⅲ	2	半期	4	2時限連続
			社会調査の基礎	2	半期	2	
			社会調査の設計と実査	2	半期	2	メディア授業
		データサイエンス発展	インターネットデータ収集技術	3	半期	2	
			機械学習Ⅱ	3	半期	2	
			機械学習Ⅲ	3	半期	2	
			テキストマイニング	3	半期	2	
			特徴量エンジニアリング	3	半期	2	
			ネットワーク理論	3	半期	2	
			統計学および実習Ⅳ	3	半期	4	2時限連続
			数理モデリングとシミュレーション	3	半期	2	
			時系列解析	3	半期	2	
			社会調査実習Ⅰ	3	半期	2	
			社会調査実習Ⅱ	3	半期	2	

大学等名	**立正大学**	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	立正大学数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）	申請年度	令和6年度

プログラムの目的

立正大学では、社会のさまざまな課題を発見し、データサイエンスの知識・技能を積極的に活用できる人材の育成を目的として、数理・データサイエンス・AIの「リテラシーレベル」に相当する知識・技能の修得を目指す本プログラムを設けています。

身に付けられる能力

1. 数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事に活用する基礎的素養を身に付ける。

2. 数理・データサイエンス・AIに関する知識や技能を人間社会に適切に活用し、AI等の恩恵を享受するとともに、これらを説明・活用することができる。

科目構成および修了要件

●プログラムを構成する科目の構成
これらの科目はオンライン授業（オンデマンド）です。

『データサイエンス入門』（1科目2単位）
＜品川キャンパス＞
仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、法学部、心理学部
＜熊谷キャンパス＞
社会福祉学部、地球環境科学部、データサイエンス学部
（2026年度以降入学生）

『AI入門Ⅰ』『AI入門Ⅱ』（2科目4単位）
＜熊谷キャンパス＞
データサイエンス学部（2023年度～2025年度入学生）

●修了要件
プログラムを構成する授業科目の修得をもって修了要件とする。

実施体制

教育開発センター

Action
・授業科目およびプログラムの改善
・文科省認定プログラムの申請

→

Plan
・全学的なプログラムの策定
・プログラムを構成する授業科目の策定

↓

Do
・プログラムを構成する授業科目の実施
・授業アンケートの実施

←

Check
・自己点検・評価の実施

↑